

一学期 交わりに参加する生活

第2期 (6月~8月) 期題「たのしい仲間」

- *自分以外にもすてきな仲間がたくさんいることを知る。
- *先生、動物、花、自然界(風、雲、星等)、季節の変化などとの関わりを通して自分で出来る事は自分ですることの楽しさを学んでいく。



クローク・・・衣替えになり、幼稚園児はTシャツへの着替えが増えたり、幼保共に夏用遊び着のボタンを留めたりすることが加わりました。年長児の手伝いのおかげで手順を覚えていきましたが、年少児にとっては遊び着の小さなボタンを留めることや、汗ばんだシャツを脱ぐことは少し難しい様でした。また、7月に入り、水遊びが始まると水遊びを楽しみにしながら、脱いだ服を丁寧にたたんだり、重ねたりする習慣が身につけてきています。

年中・年長児は、小さな子の手伝いやお泊り保育などが自信となり、身支度を短時間でしようとする自覚が芽生えてきています。これから幼稚園児は長い夏休みとなり、保育園児も保護者の方の休みにはプールや海に出かけたり、汗で着替える機会も増える事と思います。ご家庭でも丁寧に身の回りのことが出来るように、見守りながらあたたかな応援をしていただければと思います。

絵のコーナー・・・登園後の身支度を済ませるとクレヨンを持ってスムーズに席につき、思い思いに自分の好きな絵をゆくり丁寧に描いています。年長・年中児は日々の体験を描けるようになってきました。楽しかったお泊り保育の絵や日々園で発見する虫など描く姿がみられています。なぐり描きが多かった年少児は大きい子の絵を真似したりしながら、自分のイメージしたものを描けるようになってきました。子どもたちの絵を飾ることで自信につながり、飾ってある絵から刺激を受けている子どもたちです。今年も「すき・すき・だいすき」というテーマで「住友生命子ども絵画コンクール」に普段の4倍もある大きな画用紙にダイナミックに描き、出展しました。一段落したコーナーでは赤・青・緑の絵の具に白を混ぜると「わあ！ちがう色になった！」と目を輝かせたり、黒や紺の画用紙を用意すると「白いクレヨンでお絵描きができた！」と発見をよこしていました。誕生児へのネックレス作りも丁寧に取り組んでいました。また線が書きや迷路遊びを通して正しい鉛筆の持ち方、姿勢を身につけていきたいと思います。今後も様々な素材を使って絵を描く楽しさを味わっていきたくです。



造形のコーナー・・・「こんなものをつくりたい」と色々なイメージを持ってやってくる子どもたち。特に人気があるのはご家庭からご協力いただいた材料を使っ



た空き箱製作で、入園・進級し数ヶ月たち更に自信をつけた子どもたちは自分一人でも素敵な作品を作ろうと日々挑戦しています。6月の保育参加では親子一緒に時計作りを行い世界に一つしかない素敵な時計が並び、7月の七夕参加ではそれぞれの思いを込めた七夕飾りを作っていただきました。これらの経験から、自分で考えやってみようとする意欲を伸ばしてきた子どもたちは、自分で材料を選び、工夫しながら道具を使い、目をきらきらさせて作品を完成させています。しかし、時にはまだ一人では難しいこともあり、そんな時には先生の代わりに小さい友だちを気遣い優しく声を掛けながら手を貸してくれる頼もしい年長さんの姿があります。最近では京けち染めをした和紙を使って切り紙をし、なつまつりに使ううちわを作っています。和紙をハサミで切ることやノリを使って貼ることに苦戦しながらも、完成したうちわを見て笑顔で喜ぶ子どもたちです。そんな子どもたちの自信や意欲を大切にしながら日々じっくりと製作を楽しんでいきたくです。

ごっこコーナー・・・保育者や大きいお友だちと一緒に遊ぶ中で新入児も段々と太陽のお部屋での遊び方、物の貸し借りの仕方を理解し少しずつ出来るようになってきたり、片づけも最後までしっかり出来るようになりました。自分が使っていない玩具でも「僕・私も手伝ってあげる」とみんなで協力し合っ片づけている姿も見られました。6月に入るとすぐにお医者さんごっこや歯医者さんごっこも始まりました。内科検診や歯みがき集会を経験した子どもたちはそのイメージを持ってお医者さんや看護師さんになりきって遊ぶ姿がありました。その中では、人形を抱いて優しく看病している子や、患者さんとお医者さん役に分かれて熱を計ったり注射をしたりとまるで本物の病院にいるかのように役になりきる子どもたちでした。また、それを見たちゅうりっぷ・こすもす組の子どもたちも真似をして聴診器を人形やお友だちのお腹にあてて耳をすませながら静かに音を聞いている姿もありました。このような姿を大切に、コースや年齢を越えてイメージを共有しあいながら遊びを発展させていられるように丁寧に関わっていきたくです。



表現のコーナー・・・三角、四角、星...などの様々な形のドミノをひのきプレート積み木で作ったり、それらの形をお友だちと一緒につなげてみたりとさらに遊びが発展してきています。保育参加を通して、家族の方たちと一緒に遊んだことで、大型積み木でもより高さのあるものを作って楽しんだり、橋やトンネルなどの仕掛けを作ったりして、ちゅうりっぷ組さん・こすもす組さんの子どもたちも一緒に楽しんでいます。遊んだ後は子どもたち同士で積み木の形を組み合わせながら、とつても丁寧に片づけをしてくれる姿も見られています。また、園庭の木陰ではみんなで輪になり、年齢を超えて盆踊りを楽しんでいます。拍子木やタンバリン、太鼓などで盆踊りを盛り上げ、夏ならではの曲を楽しむ姿もたくさん見られました。和太鼓も踊りに合わせてたくさんの子がたたくのを楽しんでいましたので、盆踊りのリズムも伝えながら、盛り上げていきました。これからも、いろいろな曲でダンスや演奏をしたりしながら、表現する楽しさを味わっていきたくです。

外遊びのコーナー・・・6月は、ルールのある遊び(転がしドッチボールやシッポ取りゲーム)などが、園庭で盛り上がっていました。コースや年齢関係なく遊ぶ姿が多く、遊びをきっかけに他コースの友だちが増えている子もいました。梅雨に入ると、雨の日などはテラスに缶やビンを置いて雨の音を聞いて楽しみました。また、6月の保育参加でお父さんと一緒に多くの子が木工に挑戦し、お父さんの力を借りて傑作がたくさんできました。これをきっかけにテラスで木工も行い、とても多くの子がお父さんと作ったことを思い出しながらボンドを使って丁寧に作っていました。七月になると、「できたよー」とが始まり、出来ないことがあっても、鉄棒や雲梯などに何度もチャレンジし、頑張る姿をこれからも認め、みんなに紹介しながら自信に繋げていきたいと思います。それを見て、たんぼ組さんやさくら組さんも一緒に縄跳びや鉄棒など、興味を持ってたくさん挑戦していました。七月後半には、色水遊びが始まり、「〇色になるには〇と〇を入れればいから...」と自分で考えながら色を少しずつ足して、思いがけない色が出るのを発見し、好きな色水ジュースを作っている姿が見られました。今は、様々な素材(ストローやポイ、ハンガーなど)を使って大小様々な大きさのシャボン玉を作っては、みんなで歓声をあげています。これからも子どもたちが興味をもつていられる遊びを用意していきたくと思います。

